

# JMC 米欧亜 IT トレンドウォッチ

2008 年 1 月 10 日

## 欧州編:

### 英国オンライン事情

英国では、政権交代後の政治的・経済的な不安定さが残るもののブロードバンド・サービスの浸透、iPhone や他メーカーの対抗機種が登場などにより、インターネット広告への投資が増加している。インターネットを利用できるデバイスの多様化に対応することが、広告主やウェブ・サービス提供者にとって重要になりつつある。

英国におけるオンライン利用の 2008 年予測について、2007 年 12 月 28 日付で調査会社 eMarketer が発表。10-20 代の若者だけでなく、55 歳以上の年金受給者（シニア世代）もインターネット・サーフィンを楽しむ傾向にあり、インターネット上の広告の対象となる年齢層が拡大されつつある。また、電子商取引の売上高が 1,000 億ドルを超えると見られており、渋滞や店頭の混雑を避けて快適に自宅で買い物をしようという消費者意識の変化を反映している。そのため、英国ではインターネット広告に力を入れる企業が増えており、インターネット広告への投資は、2008 年に約 64 億ドルに上る見通しと eMarketer。

また、ソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）など、インターネット上のネットワーキングの利用も若者を中心に増加中。英国における SNS 利用者は、オンライン利用者の 80% 以上に上ると見られており、欧州でもっとも高い普及率となっている。個人情報保護の問題などが指摘されているものの、オンライン広告主にとっては、インターネット利用者の間で製品の口コミ評判が広がることもあるため、大切なアピール対象となる。

2008 年は、こうした PC 上の利用だけでなく、携帯電話や携帯情報端末からのインターネット利用も成長すると見られている。無料のコンテンツを利用するためには、広告と一緒に画面に現れても気にならないという消費者も多いため、広告主にとっては、いかに彼らの目を惹くものを制作するかという戦略も重要となっている。こうした広告からの収入によって、消費者にオンライン・コンテンツを無料で提供している Google は、英国では、オンライン広告企業の DoubleClick を買収。より魅力的な広告を Google 利用者にアピールしたい広告主にとっては心強い助っ人となり、Google の広告ツールとしての役割も増加するだろう。